

① TRIO パリ・東京・大阪
5組 モダンアート・コレクション

見て、比べて、話したくなる。



アンリ・マティス《椅子にもたれるオダリスク》1928年、パリ市立近代美術館 photo: Paris Musées/Musée d'Art Moderne de Paris (トリオ、テーマ＜モデルたちのパワー＞より)

パリ、東京、大阪—それぞれ独自の文化を育んできた3都市の美術館のコレクションが集結。本展覧会は、3館のコレクションから共通点のある作品でトリオを組み、構成するという、ユニークな展示を試みる。自由な発想で組まれたトリオの共通点はさまざま。150点あまりの作品で34のトリオを組み、それをテーマやコンセプトに応じて7つの章に分けて紹介することで、20世紀初頭から現代までのモダンアートの新たな見方を提案し、その魅力を浮かびあがらせる。



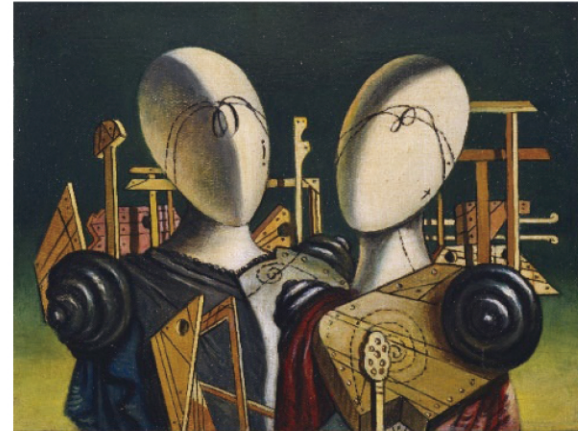
期 間 8月25日(日)まで
10:00~17:00、金・土曜日は10:00~20:00
※入館は閉館の30分前まで
休 館 日 月曜日、7/16(火)、8/13(火)
※7/15(月・休)、8/12(月・休)は開館
観 覧 料 一般2,200円、大学生1,200円、高校生700円
*中学生以下、障害者手帳をお持ちの方とその付添者(1名)は無料。それぞれ入館の際、学生証等の年齢のわかるもの、障害者手帳等をご提示ください。
*20名以上の団体料金あり(各200円引き)

会 場 東京国立近代美術館
東京都千代田区北の丸公園3-1
TEL.050-5541-8600 (ハローダイヤル)



② デ・キリコ展
3組 Giorgio De Chirico: Metaphysical Journey

不思議の世界へ、ようこそ。



ジョルジョ・デ・キリコ《ヘクトルとアンドロマケ》1970年 油彩・カンヴァス ジョルジョ・エ・イーザ・デ・キリコ財団 © Fondazione Giorgio e Isa de Chirico, Roma © Giorgio de Chirico, by SIAE 2024

20世紀を代表する巨匠の一人、ジョルジョ・デ・キリコ(1888-1978)。彼が1910年頃から描き始めた「形而上絵画」(幻想的な風景や静物によって非日常的な世界を表現する絵画)は、数多くの芸術家や国際的な芸術運動に大きな影響を与えた。

本展では、デ・キリコのおよそ70年にわたる画業を「イタリア広場」「形而上的室内」「マヌカン」などのテーマに分け、初期から晩年までの作品を余すところなく紹介。デ・キリコが描いた世界をたどる、日本では10年ぶりの大規模な個展となる。

期 間 8月29日(木)まで
9:30~17:30、金曜日は9:30~20:00
※入室は閉室の30分前まで
休 館 日 月曜日、5/7(火)、7/9(火)~7/16(火)
5/6(月・休)、7/8(月)、8/12(月・休)は開室
観 覧 料 一般2,200円、大学生・専門学校生1,300円、65歳以上1,500円、高校生以下無料
※土・日・祝、8/20(火)以降は日時指定予約制
*身体障害者手帳・愛の手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳・被爆者健康手帳をお持ちの方とその付添いの方(1名まで)は無料。
*上記の手帳をお持ちの方とその付添いの方(1名まで)・高校生以下の方は、日時指定予約不要。直接会場入口にお越しください。
*高校生、大学生・専門学校生、65歳以上の方、各種手帳をお持ちの方は、証明できるものの提示が必要。

会 場 東京都美術館
東京都台東区上野公園8-36
TEL.050-5541-8600 (ハローダイヤル)

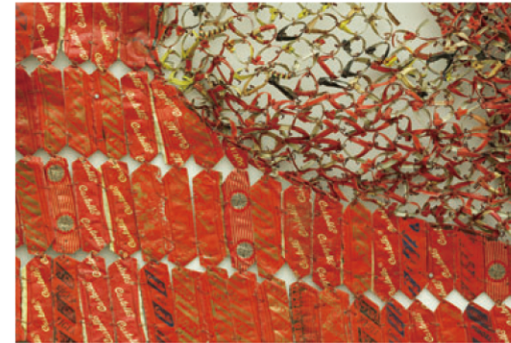


抽選
①~④各展の招待券を記載の組数分
ご用意しています。(1組=2枚)

招待券の抽選応募フォームは、協会ホームページにある会員専用ページ内です。会員IDやパスワードがご不明な場合は、日本建築協会総務課(soumu@aj.or.jp)まで。応募期限は毎月20日、厳正に抽選(*). 招待券は当会より郵送でお届けいたします。当選発表は招待券の発送をもってかえさせていただきます。(*) 抽選に際しては初回申込者優先

③ ラインズ
5組 一意識を流れに合わせる

コレクションに焦点を当てた、再開を飾る企画展



エル・アナツイ《パースペクティブス》(部分) 2015 ©EI ANATSUI 金沢21世紀美術館蔵 photo: KIOKU Keizo

芸術家たちが作品制作の基本要素として線をどのように使っているか、線がどのように意味、動き、感情を伝えることができるかについて探究する展覧会。線のさまざまな側面を探求し、線が私たちの生活や人間関係をどのように形作っているか、作品を通じて考える場とする。線を「間にある」存在として考察することで、私たちの経験、つながり、世界に対する認識を形成する線の多面的で発展的な性質についての考察も可能だ。また、現代という時代もその先に見えてくるのではないだろうか。



今年20周年をむかえる当館のプログラムのコンセプトは、新しい人間性を探るための「アートと新しいエコロジー」。

これまで築いてきた文化のエコロジーを検証するとともに、現代の緊急の問題にも対処し、思慮深く、創造的な提案の年となる。

今年1月の震災により当館も一部被災した。私たちは自然環境の脅威とともにあること、共生やレジリエンスによりこれら乗り越えていかねばならないことを再確認した。

期 間 6月22日(日)~10月14日(月・祝)
10:00~18:00、金・土曜日は10:00~20:00
※入場は閉場の30分前まで
休 場 日 月曜日、7/16、8/13、9/17、9/24
7/15、8/12、9/16、9/23、10/14は開場
観 覧 料 一般1,200円、大学生800円、小中高生400円
65歳以上1,000円
*同時期開催のコレクション展も観覧可

会 場 金沢21世紀美術館
石川県金沢市広坂1-2-1
TEL.076-220-2800



④ 開館15周年記念 山王美術館
5組 コレクションでつづる 印象派展

コロドー、ミレー、クールベ、モネ、ルノワール、ドガ、シスレー



クロード・モネ《オシュデ家の四人の子もたち(ジャック、シュザンヌ、ブランシュ、ジェルメーン)》1880年代初頭、山王美術館蔵

19世紀末のパリは産業革命を背景に急速に近代都市へと発展を遂げる。一方、絵画界においては、伝統的な主題・技法を遵守するアカデミズム絵画がまだ主流であり、サロンが唯一作品発表の場であった。

こうした時代にあらわれたのがのちに「印象派(印象主義者)」と称される画家のグループである。光のもとで制作することを重視した彼らは、絵具を混色せずに並置する「筆触分割」という新たな技法を生み出す。印象派の画家たちは、明るさを失うことなく戸外の光を表現することを可能とした技法を用い、自らが生きる同時代の風俗を主題とすることで、ルネサンス以来の西洋絵画における色彩の観念を根底から覆す革新的な絵画を生み出したのである。1874年には、画家たちだけの手によるグループ展を開催したが、「印象派」の名称は、この第一回展に出品されたモネ作《印象、日の出》に由来する。

本展では、印象派の先駆者ともいえるコロドー、ミレー、クールベから、印象派の中心的な存在として活躍したモネ、ルノワール、ドガ、シスレーさらにルドン、ゴーガンらの作品を展示する。

期 間 7月29日(月)まで
10:00~17:00
※入館は閉館の30分前まで
休 館 日 火曜日・水曜日
観 覧 料 一般1,300円、大学・高校生800円、中学生以下500円(保護者同伴に限り2名まで無料)
*学生証の提示が必要

会 場 山王美術館
大阪市中央区城見2-2-27
TEL.06-6942-1117

